

インターンシップ制度を活用した大学生の実務体験

研究推進部 研究推進室

農研機構では、最先端の研究開発スキルや考え方および取り組み方の体験を目的として、学生を対象としたインターンシップを実施しています。

当部門では8月16日(月)から20日(金)の日程で筑波大学の齊藤一真さんが空間情報グループで実験などを体験しました。

インターンシップ生の感想

今回のインターンシップで、近年話題になっているリモートセンシング技術について触れることができたのは、とても貴重な体験でした。自分で撮影した画像が三次元のデータとなることが少し不思議な感覚で非常に興味深かったです。今後ドローンを始めとしたリモートセンシング技術が発展していく中で、これからは担う世代の一人として、この経験を活かしていきたいと考えております。ご対応いただいた研究者の方々、誠にありがとうございました。

空間情報グループ 栗田英治上級研究員からのコメント

空間情報グループが担当した実習内容は、ドローンによる撮影、撮影データを利用した圃場進入路・法面、付帯施設などの可視化及びデータ解析です。撮影前の現地や機体の確認にはじまり、実際にドローンを操作しての撮影、その後の撮影データを用いた三次元解析までの一連の流れになります。ドローンは、フィールド調査における有効なツールですが、機体の点検、気象条件の確認など、しっかりと安全対策を講じる必要があることを、実感を持って体験できたのでは、と思っています。コロナ禍で様々な制限があり、かつ連日の猛暑の中でしたが、最後まで熱心に取り組む姿勢がうかがえました。今回の経験が少しでも今後の学生さんの糧になると幸いです。

なお、今回のインターンシップのうち、一部の日程は地域防災グループによる「ため池の簡易氾濫解析による浸水想定区域の解析」を実施しました。

